

2012・6・12 重宝(ク)

縦のものを横にする、横のものは縦にする。と言えば何か謎々めくが、新曜社刊の『検閲・メディア』(鈴木登美・十重田裕一ほか編)は珍しい「バイリンガル出版」で、ページ数も日本語と英語が二等分で翻訳されている。もともとはコロンビア大学と早稲田

大学関係者を中心とするシンポジウムから出発したが、フランスの研究者も加えて、「江戸から戦後まで」、文学、演劇、絵画、大衆娯楽、検閲の共同研究

オルパー「振り子の揺れ」を紹介しておきたい。連合軍は「視覚資料部」にCD(民間検閲支隊)なる組織をつくり、紙芝居を通じて今後の方針を示す。そこで、その方向を子供たちに刷りこむ一方、それにそぐわないものは容赦なく禁じておきたい。現在の電気紙芝居(TV)はどうだろうか。

なお本書では触れていないが、明治十六年の新聞紙の発行には保証金制度があり、それが明治十九年の新聞条例改定以来、新聞・雑誌の発行には保証金制度がつた。それによって廃刊した娯楽雑誌も多数あつたというから、これも検閲の一種として取り上げてほしかった。(バイリンガル)